

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

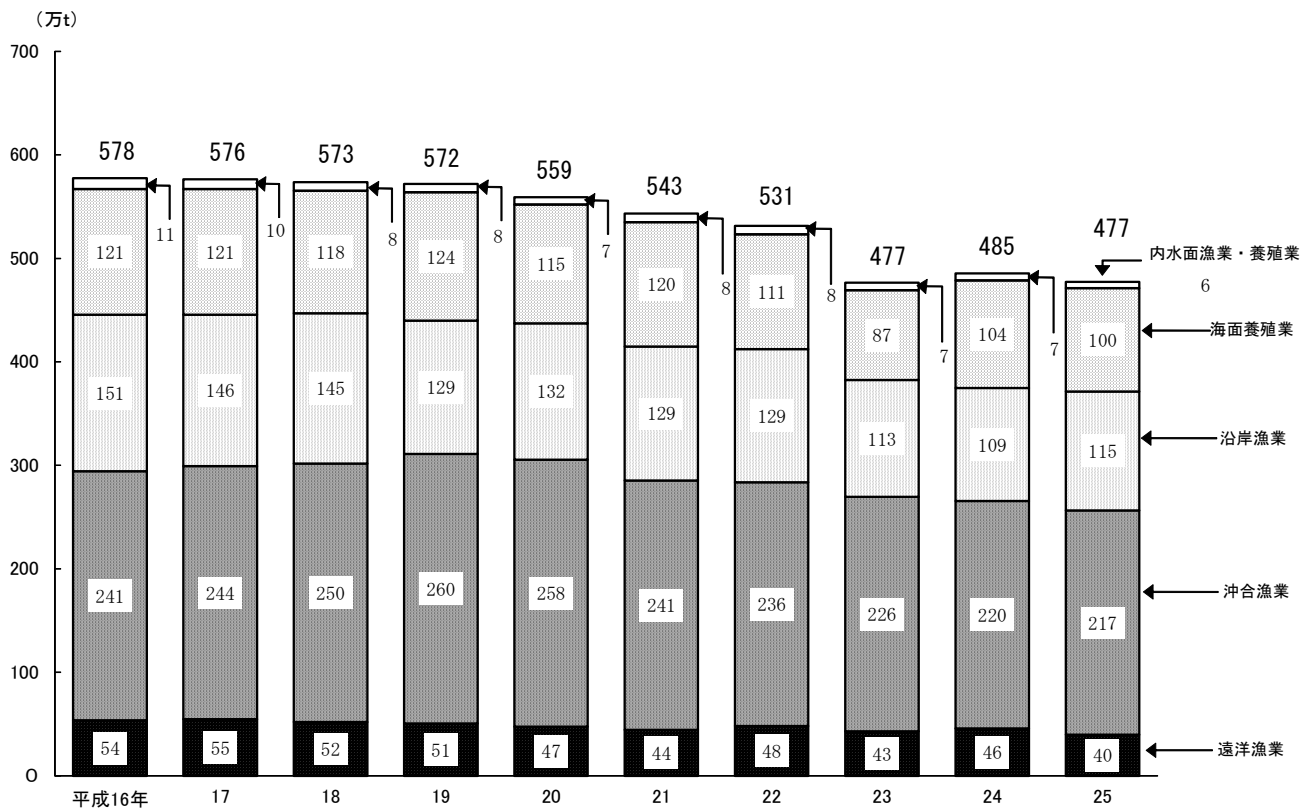
平成 25 年の我が国の漁業・養殖業の生産量は 477 万 3,695 t で、前年に比べ 7 万 9,398 t (1.6 %) 減少した。

このうち、海面漁業の漁獲量は 371 万 5,467 t で、前年に比べ 3 万 1,296 t (0.8 %) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は 39 万 5,767 t で、前年に比べ 6 万 2,567 t (13.7 %) 減少、沖合漁業は 216 万 9,126 t で、前年に比べ 2 万 8,959 t (1.3 %) 減少、沿岸漁業は 115 万 574 t で、前年に比べ 6 万 229 t (5.5 %) 増加した。

また、海面養殖業の収穫量は 99 万 7,097 t で、前年に比べ 4 万 2,407 t (4.1 %) 減少した。内水面漁業・養殖業の生産量は 6 万 1,131 t で、前年に比べ 5,695 t (8.5 %) 減少した。

図 1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない。

(1) 海面漁業

海面漁業の漁獲量は371万5,467 tで、前年に比べ3万1,296 t (0.8%) 減少した。東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は11万3,423 t、宮城県の漁獲量は18万5,056 tであり、前年に比べてそれぞれ1万147 t (9.8%)、3万2,144 t (21.0%) 増加した。

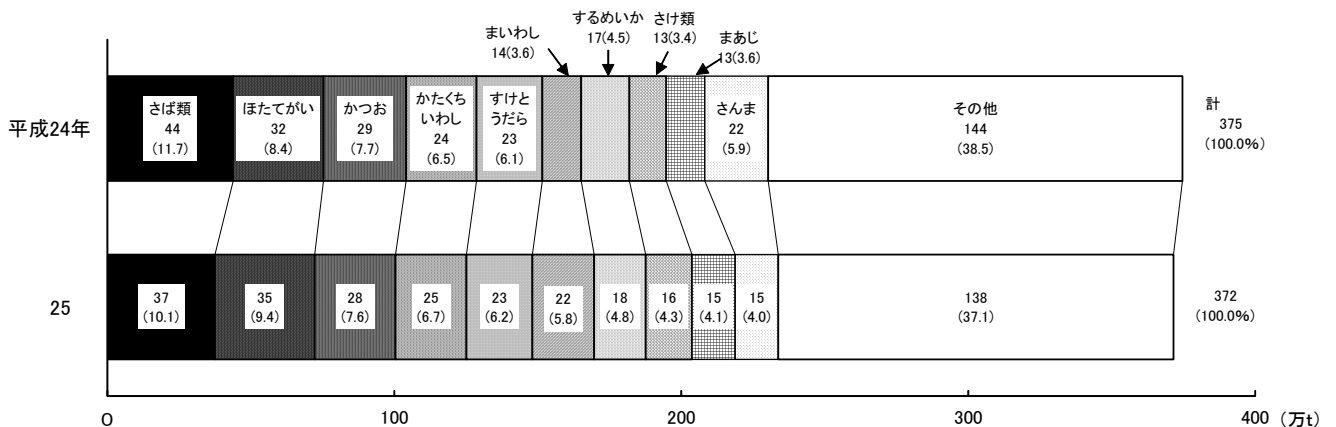
また、福島県の漁獲量は4万5,248 tであり、福島県沖以外の海域での漁獲量が増加したことから、前年と比べ477 t (1.1%) 増加した。

ア 主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、まいわし、さけ類、ほたてがい、まあじ、ぶり類、まだらであり、減少した主な魚種は、さんま、さば類、こんぶ類、ほっけ、きはだであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が10.1%、ほたてがいが9.4%、かつおが7.6%、かたくちいわしが6.7%、すけとうだらが6.2%、まいわしが5.8%、するめいかが4.8%、さけ類が4.3%、まあじが4.1%、さんまが4.0%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



注：数値は、表示単位未満のため合計と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

(ア) さば類

漁獲量は37万4,954 tで、前年に比べ6万3,315 t (14.4%) 減少した。

これは、北海道、宮城県等で増加したものの、長崎県、島根県、茨城県等で減少したためである。

(イ) ほたてがい

漁獲量は34万7,541 tで、前年に比べ3万2,154 t (10.2%) 増加した。

これは、漁獲量のほとんどを占める北海道で増加したためである。

(ウ) かつお

漁獲量は28万1,735 tで、前年に比べ6,042 t (2.1%) 減少した。

これは、高知県、鹿児島県等で増加したものの、東京都、新潟県等で減少したためである。

る。

(エ) かたくちいわし

漁獲量は24万7,427 tで、前年に比べ2,689 t (1.1%)増加した。

これは、千葉県、北海道等で減少したものの、愛知県、愛媛県等で増加したためである。

(オ) すけとうだら

漁獲量は22万9,577 tで、前年に比べ246 t (0.1%)減少した。

これは、青森県等で増加したものの、宮城県等で減少したためである。

(カ) まいわし

漁獲量は21万5,004 tで、前年に比べ7万9,768 t (59.0%)増加した。

これは、三重県、大阪府等で減少したものの、島根県、茨城県等で増加したためである。

(キ) するめいか

漁獲量は18万89 tで、前年に比べ1万1,882 t (7.1%)増加した。

これは、青森県、長崎県等で減少したものの、北海道等で増加したためである。

(ク) さけ類

漁獲量は16万902 tで、前年に比べ3万2,400 t (25.2%)増加した。

これは、北海道等で増加したためである。

(ケ) まあじ

漁獲量は15万884 tで、前年に比べて1万6,870 t (12.6%)増加した。

これは、茨城県等で減少したものの、島根県、長崎県等で増加したためである。

(コ) さんま

漁獲量は14万9,853 tで、前年に比べて7万1,617 t (32.3%)減少した。

これは、北海道等で減少したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位～5位)

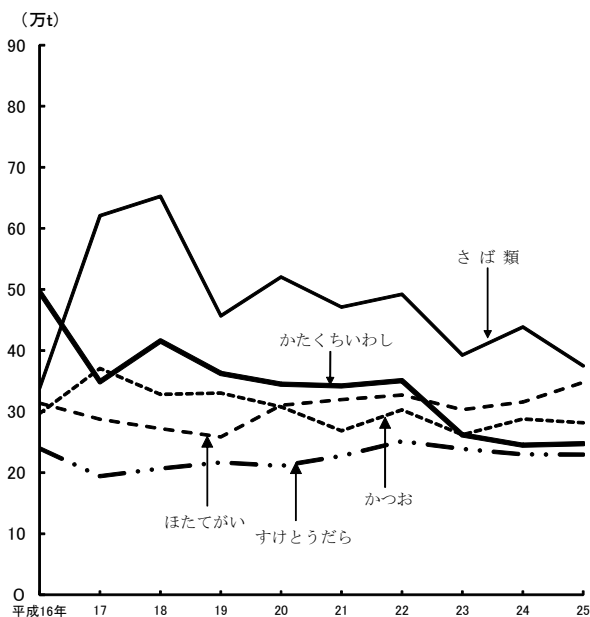
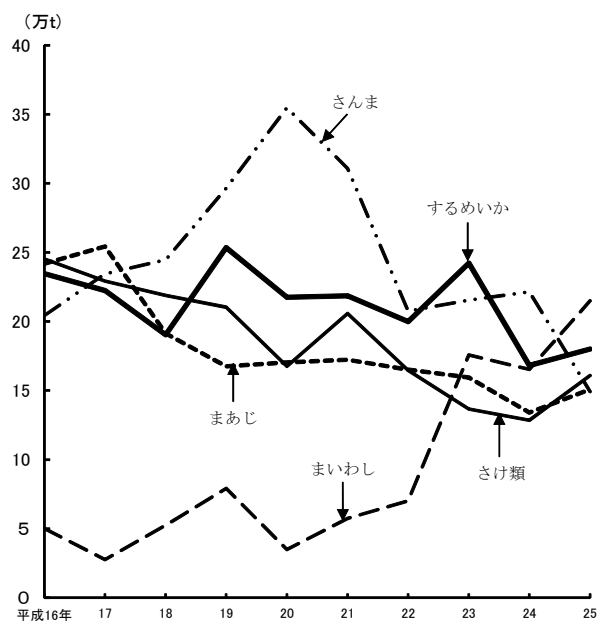


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位6位～10位)



る。

(エ) かたくちいわし

漁獲量は24万7,427 tで、前年に比べ2,689 t (1.1%)増加した。

これは、千葉県、北海道等で減少したものの、愛知県、愛媛県等で増加したためである。

(オ) すけとうだら

漁獲量は22万9,577 tで、前年に比べ246 t (0.1%)減少した。

これは、青森県等で増加したものの、宮城県等で減少したためである。

(カ) まいわし

漁獲量は21万5,004 tで、前年に比べ7万9,768 t (59.0%)増加した。

これは、三重県、大阪府等で減少したものの、島根県、茨城県等で増加したためである。

(キ) するめいか

漁獲量は18万89 tで、前年に比べ1万1,882 t (7.1%)増加した。

これは、青森県、長崎県等で減少したものの、北海道等で増加したためである。

(ク) さけ類

漁獲量は16万902 tで、前年に比べ3万2,400 t (25.2%)増加した。

これは、北海道等で増加したためである。

(ケ) まあじ

漁獲量は15万884 tで、前年に比べて1万6,870 t (12.6%)増加した。

これは、茨城県等で減少したものの、島根県、長崎県等で増加したためである。

(コ) さんま

漁獲量は14万9,853 tで、前年に比べて7万1,617 t (32.3%)減少した。

これは、北海道等で減少したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位～5位)

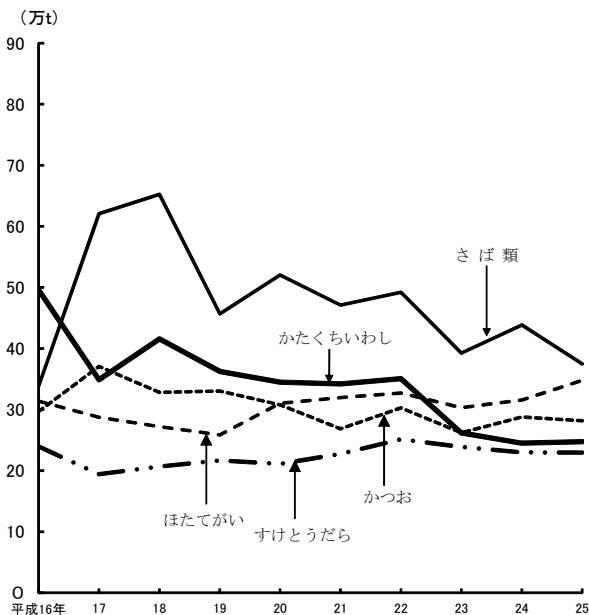
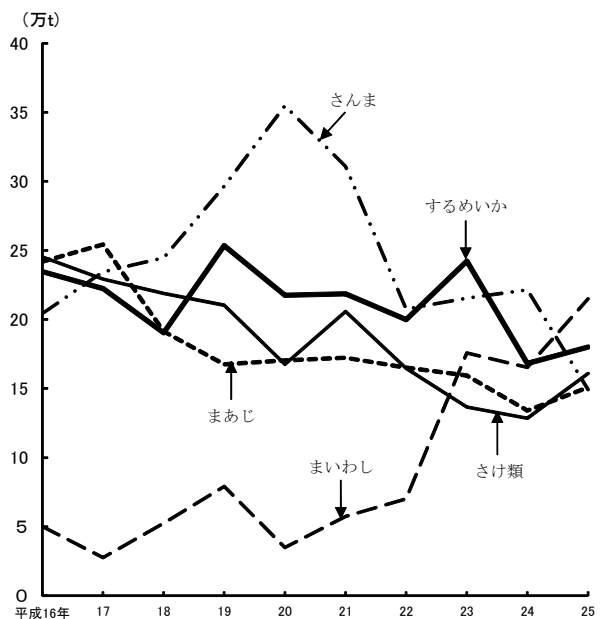


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位6位～10位)



(2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は99万7,097 tで、前年に比べ4万2,407 t (4.1%) 減少した。

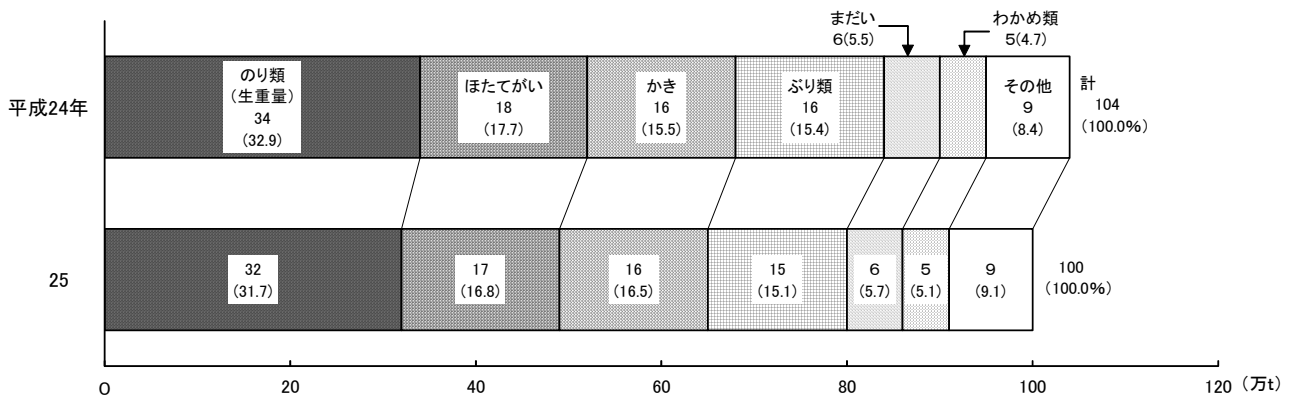
これは、のり類、ほたてがい等の収穫量が減少したためである。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は3万1,195 t、宮城県の収穫量は6万1,753 tであり、前年に比べてそれぞれ7,683 t (32.7%)、1万8,660 t (43.3%) 増加した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、かき類、ぎんざけ、わかめ類等であり、減少した主な魚種は、のり類(生重量)、ほたてがい、ぶり類等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が31.7%、ほたてがい16.8%、かき類16.5%、ぶり類15.1%、まだいが5.7%、わかめ類5.1%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



ア 魚類

収穫量は24万3,670 tで、前年に比べ6,802 t (2.7%) 減少した。

(ア) ぶり類

収穫量は15万387 tで、前年に比べ9,828 t (6.1%) 減少した。

これは、愛媛県等において、稚魚導入数が減少したためである。

(イ) まだい

収穫量は5万6,861 tで、前年に比べ208 t (0.4%) 増加した。

(ウ) ぎんざけ

収穫量は1万2,215 tで、前年に比べ2,487 t (25.6%) 増加した。

これは、宮城県において、東日本大震災により被害を受けた養殖施設が一部復旧したこと等から増加したためである。

イ 貝類

収穫量は33万2,440 tで、前年に比べ1万3,473 t (3.9%) 減少した。

(ア) ほたてがい

収穫量は16万7,844 tで、前年に比べ1万6,443 t (8.9%) 減少した。

これは、青森県において、海面温度上昇に伴うへい死等が増加したためである。

(イ) かき類

収穫量は16万4,139 tで、前年に比べ3,023 t (1.9%)増加した。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (魚類)

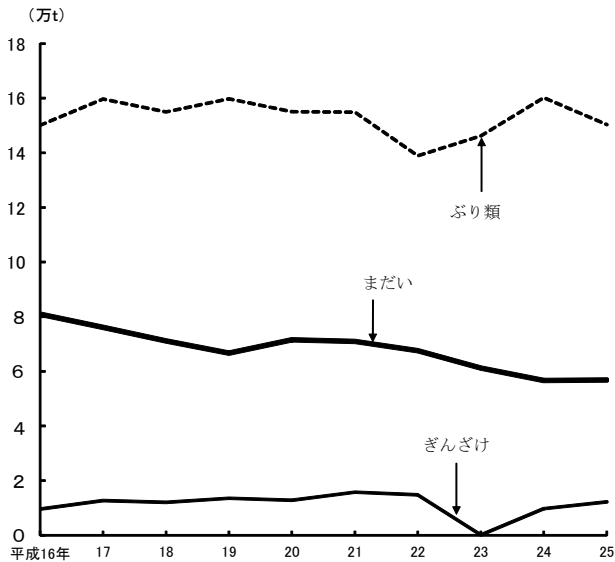
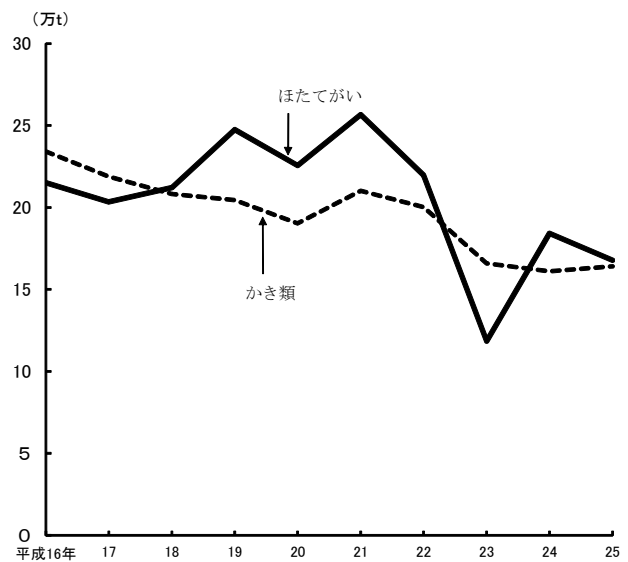


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (貝類)



ウ 海藻類

収穫量は41万8,366 tで、前年に比べ2万2,388 t (5.1%)減少した。

(ア) のり類 (生重量)

収穫量は31万6,228 tで、前年に比べ2万5,352 t (7.4%)減少した。

これは、兵庫県、熊本県等において、栄養塩不足による色落ち等から減少したためである。

(イ) わかめ類

収穫量は5万614 tで、前年に比べ2,271 t (4.7%)増加した。

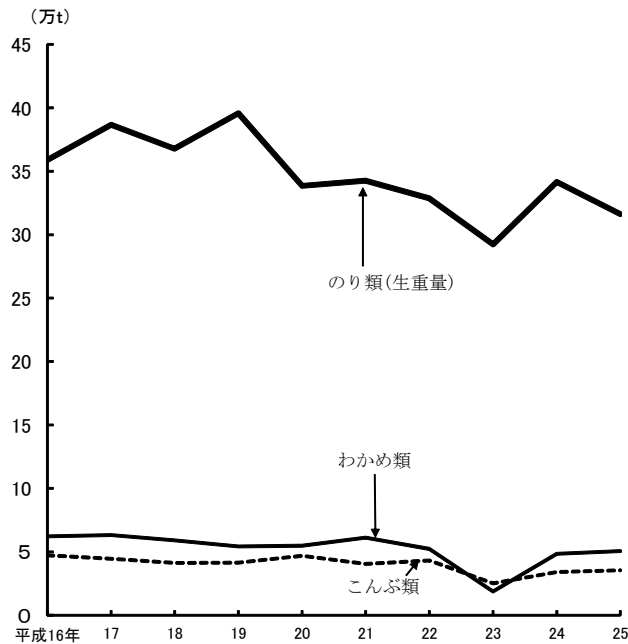
これは、岩手県等において東日本大震災により被害を受けた養殖施設が復旧したこと等から増加したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は3万5,410 tで、前年に比べ1,263 t (3.7%)増加した。

これは、岩手県等において東日本大震災により被害を受けた養殖施設が復旧したこと等から増加したためである。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



(3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 108 河川及び 24 湖沼）の漁獲量は 3 万 635 t で、前年に比べ 2,234 t（6.8％）減少した。

ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 1 万 6,913 t で、前年に比べ 979 t（5.5％）減少した。

また、湖沼における漁獲量は 1 万 3,723 t で、前年に比べ 1,255 t（8.4％）減少した。

イ 主要魚種別漁獲量

(ア) さけ類

漁獲量は 1 万 1,834 t で、前年に比べ 1,271 t（9.7％）減少した。

これは、北海道等で減少したためである。

(イ) しじみ

漁獲量は 8,454 t で、前年に比べ 615 t（7.8％）増加した。

これは、島根県等において、資源管理により増加したためである。

(ウ) あゆ

漁獲量は 2,332 t で、前年に比べ 188 t（7.5％）減少した。

これは、前年の産卵量の減少等により減少したためである。

(エ) わかさぎ

漁獲量は 1,156 t で、前年に比べ 177 t（13.3％）減少した。

これは、北海道等で減少したためである。

(オ) しらうお

漁獲量は 632 t で、前年に比べ 145 t（18.7％）減少した。

これは、島根県、青森県等で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

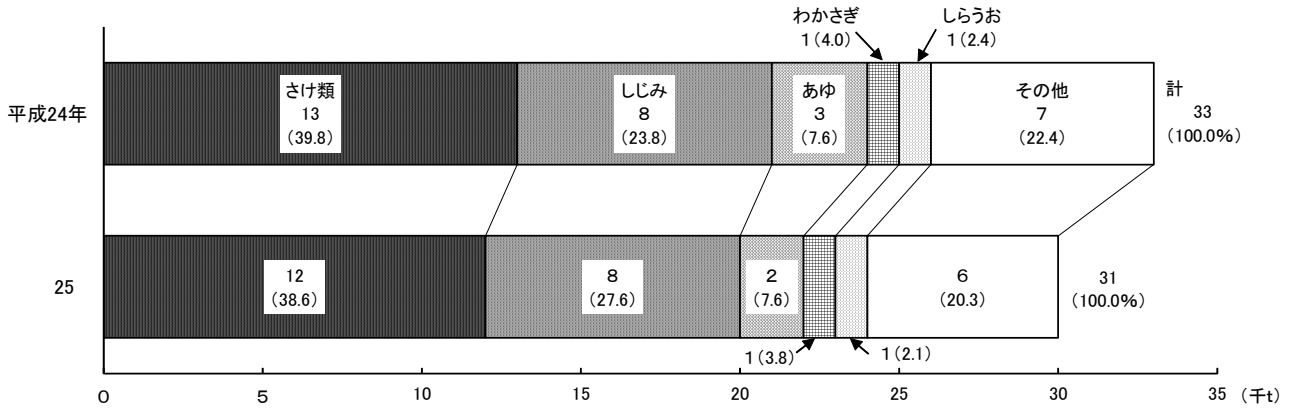
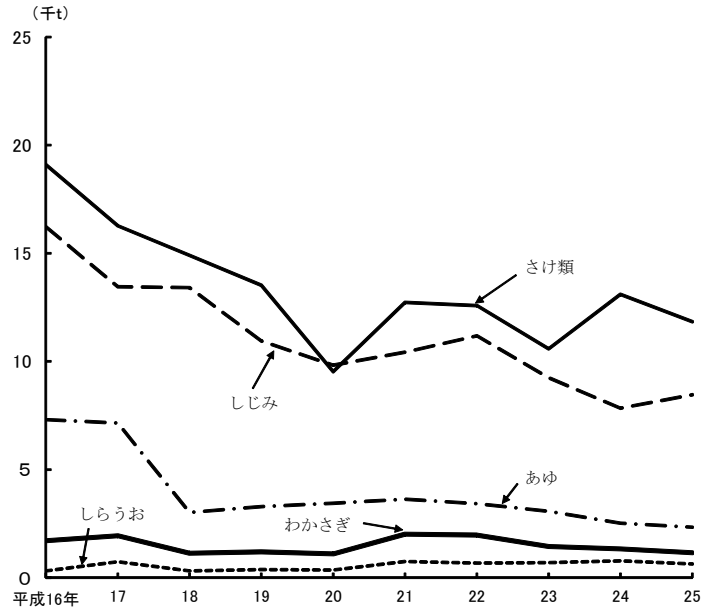


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収獲量は3万496 tで、前年に比べ3,461 t (10.2%) 減少した。

ア うなぎ

収獲量は1万4,204 tで、前年に比べ3,173 t (18.3%) 減少した。

これは、鹿児島県、愛知県等において、種苗の不足により減少したためである。

イ あゆ

収獲量は5,279 tで、前年に比べ84 t (1.6%) 増加した。

ウ にじます

収獲量は4,962 tで、前年に比べ185 t (3.6%) 減少した。

エ こい

収獲量は3,019 tで、前年に比べ55 t（1.9%）増加した。

図11 内水面養殖業主要魚種別収獲量

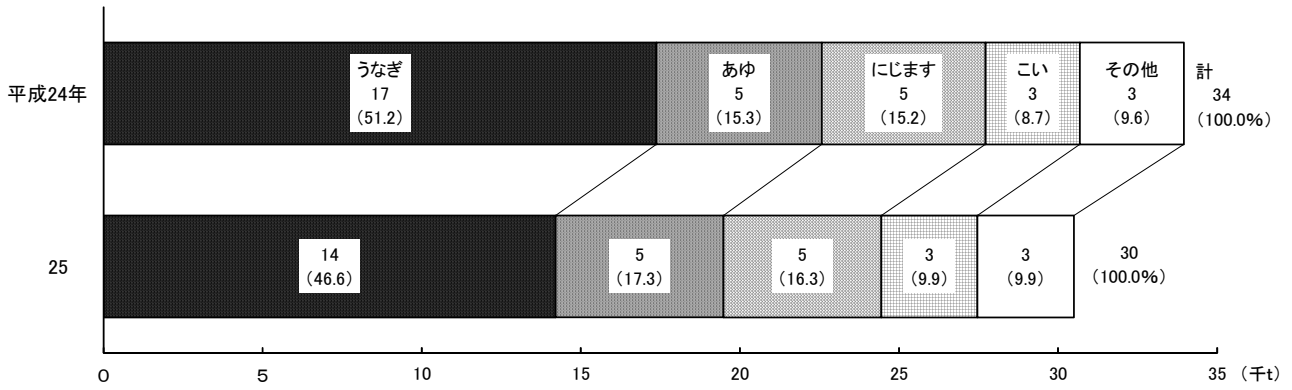


図12 内水面養殖業主要魚種別収獲量の推移

